

令和年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	御殿場線			事業者名	富士急行株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	御殿場駅	裾野駅 入口	三島駅		
系統キロ程 (km)	21.8		輸送量 (人/日)	18.5	
平均乗車密度 (人/便)	3.7		運行回数 (回/日)	5.0	
公共・拠点 アクセス 状況	学校	日本大学、日大三島高校、三島北小・中学校、徳倉小学校、裾野西小学校、神山小学校、富士岡小・中学校			
	病院	大橋医院、神山復生病院			
	商業施設	ベルシティ、時之栖			
	その他	裾野市役所、裾野市営プール、裾野市民文化センター、県御殿場庁舎、三菱アルミニウム、矢崎部品、トヨタ自動車東日本、岡村製作所			
収支率 (%) (収益/費用)	44.7		乗車人員 (人)	59,455	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点3 バス停9	名称	拠点：JR三島駅、JR若波駅、JR御殿場駅 バス停：東し入口、三菱前、佐野、復生病院前、かまど中、秋美容台、裾野駅入口、裾野文化センター、森の腰		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	34.8%				
増収策	<p>ア. 補助制度を活用し、低床バスを導入した。(大型・中型超低床：各2両)</p> <p>イ. 地域との連携や自社スケールを活用してのセールス展開</p> <p>① 関係自治体と連携してバス時刻表・乗り方案内のツールの小山町内全戸配布を実施。</p> <p>② 利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施。 (御殿場市内小学校：5校、小山町内小学校2校)</p> <p>エ. 利用者へ配慮した取り組み</p> <p>① 覆面調査員による接客の抜き打ちテストを行い、乗務員・窓口係員のホスピタリティ強化を図った。</p> <p>オ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動</p> <p>① 小山町各支所でシルバー定期の出張販売を毎月実施。</p> <p>② 「時の栖」における冬季イルミネーションに作品出展。乗合バスをアピールした。</p> <p>③ 国立中央青少年の交流家のイベントに参加し、バス乗り方教室を開催。</p> <p>④ 地元FM放送を活用し、乗合バスPRのCM放送を継続実施。</p> <p>⑤ H29.9～登山・アウトドア情報アプリ「YAMA P」内に公式アカウント「富士急ハイキング」を実装。公共交通によるハイキングのPRを開始。</p>				
費用削減策	<p>ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を図る。</p> <p>イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員への声掛け、街頭監査による注意喚起により、費用削減を図った。</p> <p>ウ. ドライブレコーダ(H25年度内で全車搭載済み)を活用し、事故防止に役立てることで事故による修理費等の削減を図った。</p> <p>エ. 車両の更新により、燃費効率の向上と修繕費の削減を図った。</p> <p>オ. H31.4～不採算運行の効率化を図った。</p> <p>① 不採算系統の上野線(高根支所経由)を廃止し、経費削減した。</p> <p>② 不採算系統の玉穂循環線線を廃止し、経費削減した。</p> <p>③ 不採算系統の上小林循環線を廃止し、経費削減した。</p> <p>④ 不採算系統の市民交流センター線を廃止し、経費削減した。</p>				
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>広域利用状況(%) 100</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p>				

令和年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式 2

系統名	駿河小山線			事業者名	富士急行株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	御殿場駅	一色	駿河小山駅		
系統キロ程 (km)	11.8	輸送量 (人/日)	39.9		
平均乗車密度 (人/便)	3.3	運行回数 (回/日)	12.1		
公共・拠点 アクセス 状況	学校	御殿場小・中学校、御殿場高校・中・小学校、高根小・中学校、明倫小学校			
	病院	救急医療センター			
	商業施設	ハックドラッグ、マミー、セルバ、道の駅ふじおやま、コメリ、丸善食品			
	その他	郵便局（5件）、御殿場市役所、小山町役場、小山町消防署、コミュニティセンター、御殿場保健センター、小山町ふじみセンター			
収支率 (%) (収益/費用)	46.8		乗車人員 (人)	84,937	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点 2 バス停 7	名称	拠点：JR御殿場駅、JR駿河小山駅 バス停：湯沢、御殿場小学校前、上町、仲町、小山町役場、上合、佐野川		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	34.8%				
増収策	<p>ア. 補助制度を活用し、低床バスを導入した。（大型・中型超低床：各2両）</p> <p>イ. 地域との連携や自社スケールを活用してのセールス展開</p> <p>① 関係自治体と連携してバス時刻表・乗り案内のツールの小山町内全戸配布を実施。</p> <p>② 利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施。 （御殿場市内小学校：5校、小山町内小学校2校）</p> <p>エ. 利用者に配慮した取り組み</p> <p>① 覆面調査員による接遇の抜き打ちテストを行い、乗務員・窓口係員のホスピタリティ強化を図った。</p> <p>オ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動</p> <p>① 小山町各支所でシルバー定期の出張販売を毎月実施。</p> <p>② 「時の栖」における冬季イルミネーションに作品出展。乗合バスをアピールした。</p> <p>③ 国立中央青少年の交流家のイベントに参加し、バス乗り方教室を開催。</p> <p>④ 地元FM放送を活用し、乗合バスPRのCM放送を継続実施。</p> <p>⑤ H29.9～登山・アウトドア情報アプリ「YAMA P」内に公式アカウント 「富士急ハイキング」を実装。公共交通によるハイキングのPRを開始。</p>				
費用削減策	<p>ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を図る。</p> <p>イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員への声掛け、街頭監査による注意喚起により、費用削減を図った。</p> <p>ウ. ドライブレコーダ（H25年度内で全車搭載済み）を活用し、事故防止に役立てることで事故による修理費等の削減を図った。</p> <p>エ. 車両の更新により、燃費効率の向上と修繕費の削減を図った。</p> <p>オ. H31.4～不採算運行の効率化を図った。</p> <p>① 不採算系統の上野線（高根支所経由）を廃止し、経費削減した。</p> <p>② 不採算系統の玉穂循環線線を廃止し、経費削減した。</p> <p>③ 不採算系統の上小林循環線を廃止し、経費削減した。</p> <p>④ 不採算系統の市民交流センター線を廃止し、経費削減した。</p>				
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 150</p> <p>輸送量(人/日) 10 30</p> <p>平均乗車密度(人/便) 20 100</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 300,000</p> <p>乗車人員(人) 100 300,000</p> <p>収支率(%) 100 30</p> <p>広域利用状況(%) 100 30</p>				

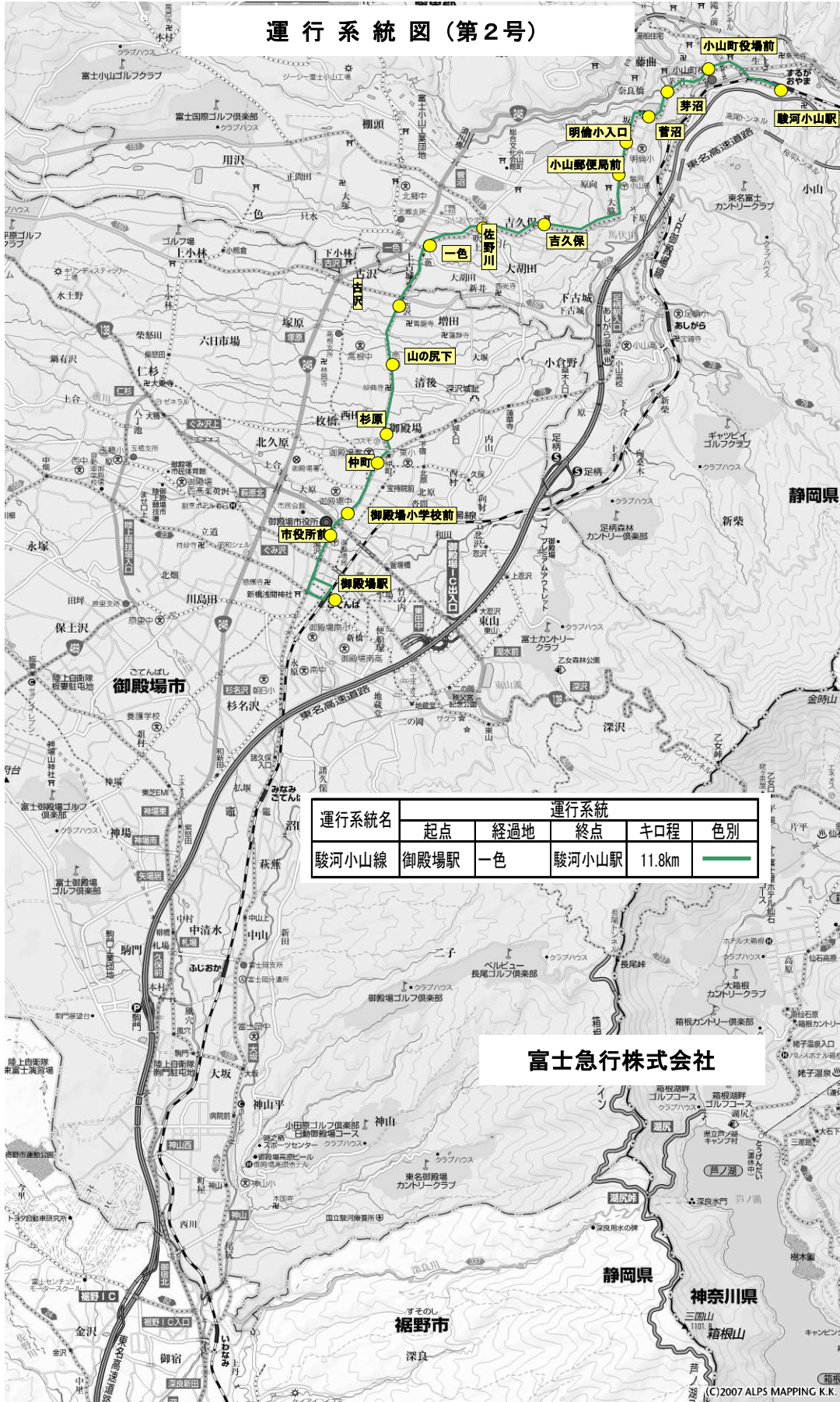
令和年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	十里木線			事業者名	富士急行株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	御殿場駅	須山	十里木		
系統キロ程 (km)	19.1	輸送量 (人/日)	21.6		
平均乗車密度 (人/便)	3.6	運行回数 (回/日)	6.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	原里中学・小学校、須山小学校			
	病院	フジ虎ノ門病院、東部病院、渡辺整形外科、			
	商業施設	クラボウ、ピオパーク、JAなんすん			
	その他	原里支所、板妻駐屯地、須山支所、裾野富士山資料館、富士裾野工業団地、東海ゴム、須山浅間神社、富士サファリパーク、十里木別荘地、愛鷹山登山口			
収支率 (%) (収益/費用)	43.2		乗車人員 (人)	47,934	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停5	名称	拠点：JR御殿場駅 バス停：森の腰、大樫、板妻、須山、富士サファリパーク		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	40.0%				
増収策	<p>ア. 補助制度を活用し、低床バスを導入した。(大型・中型超低床：各2両)</p> <p>イ. 地域との連携や自社スケールを活用してのセールス展開</p> <p>① 関係自治体と連携してバス時刻表・乗り案内のツールの小山町内全戸配布を実施。</p> <p>② 利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施。</p> <p>(御殿場市内小学校：5校、小山町内小学校2校)</p> <p>エ. 利用者に配慮した取り組み</p> <p>① 覆面調査員による接遇の抜き打ちテストを行い、乗務員・窓口係員のホスピタリティ強化を図った。</p> <p>オ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動</p> <p>① 小山町各支所でシルバー定期の出張販売を毎月実施。</p> <p>② 「時の栖」における冬季イルミネーションに作品出展。乗合バスをアピールした。</p> <p>③ 国立中央青少年の交流家のイベントに参加し、バス乗り方教室を開催。</p> <p>④ 地元FM放送を活用し、乗合バスPRのCM放送を継続実施。</p> <p>⑤ H29.9～登山・アウトドア情報アプリ「YAMA P」内に公式アカウント「富士急ハイキング」を実装。公共交通によるハイキングのPRを開始。</p>				
費用削減策	<p>ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を図る。</p> <p>イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員への声掛け、街頭監査による注意喚起により、費用削減を図った。</p> <p>ウ. ドライブレコーダ (H25年度内で全車搭載済み) を活用し、事故防止に役立terること事故による修理費等の削減を図った。</p> <p>エ. 車両の更新により、燃費効率の向上と修繕費の削減を図った。</p> <p>オ. H31.4～不採算運行の効率化を図った。</p> <p>① 不採算系統の上野線 (高根支所経由) を廃止し、経費削減した。</p> <p>② 不採算系統の玉穂循環線線を廃止し、経費削減した。</p> <p>③ 不採算系統の上小林循環線を廃止し、経費削減した。</p> <p>④ 不採算系統の市民交流センター線を廃止し、経費削減した。</p>				
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

令和年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式 2

系統名	河口湖線			事業者名	富士急行株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	河口湖	旭日丘	御殿場駅		
系統キロ程 (km)	35.9	輸送量 (人/日)	37.9		
平均乗車密度 (人/便)	6.9	運行回数 (回/日)	5.5		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	御殿場西高校、須走小・中学校、山中湖小・中学校、富士吉田市立看護専門学校、日大セミナーハウス			
	病院	富士吉田市立病院、渡辺整形外科			
	商業施設	JA御殿場、キリンデスティナリー、ケースデンキ、JA須走、道の駅すばしり、ファナック、道の駅富士吉田、都留信用組合			
	その他	御殿場市立図書館、御殿場市民会館、須走支所、自衛隊富士学校、山中湖村役場、山中湖郵便局、自衛隊北富士駐屯地、上吉田コミュニティセンター、須走浅間神社、天恵、森の駅旭日丘、文学の森公園、忍野八海、さかな公園、忍野温泉、北口本宮富士浅間神社、富士急ハイランド			
収支率 (%) (収益/費用)	69.3		乗車人員 (人)	75,965	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点 3 バス停11	名称	拠点：JR御殿場駅、富士急行富士山駅、富士急行河口湖駅 バス停：湯沢、くみ沢、図書館前、須走浅間神社、山中湖旭日丘、山中湖村役場前、富士山山中湖、忍野入口、セメ草、横町、警察署前		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	65.8%				
増収策	<p>ア. 補助制度を活用し、低床バスを導入した。(大型・中型超低床：各2両)</p> <p>イ. 地域との連携や自社スケールを活用してのセールス展開</p> <p>① 関係自治体と連携してバス時刻表・乗り案内のツールの小山町内全戸配布を実施。</p> <p>② 利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施。 (御殿場市内小学校：5校、小山町内小学校2校)</p> <p>エ. 利用者に配慮した取り組み</p> <p>① 覆面調査員による接遇の抜き打ちテストを行い、乗務員・窓口係員のホスピタリティ強化を図った。</p> <p>オ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動</p> <p>① 小山町各支所でシルバー定期の出張販売を毎月実施。</p> <p>② 「時の栖」における冬季イルミネーションに作品出展。乗合バスをアピールした。</p> <p>③ 国立中央青少年の交流家のイベントに参加し、バス乗り方教室を開催。</p> <p>④ 地元FM放送を活用し、乗合バスPRのCM放送を継続実施。</p> <p>⑤ H29.9～登山・アウトドア情報アプリ「YAMA P」内に公式アカウント「富士急ハイキング」を実装。公共交通によるハイキングのPRを開始。</p>				
費用削減策	<p>ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を図る。</p> <p>イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員への声掛け、街頭監査による注意喚起により、費用削減を図った。</p> <p>ウ. ドライブレコーダ (H25年度内で全車搭載済み) を活用し、事故防止に役立てることで事故による修理費等の削減を図った。</p> <p>エ. 車両の更新により、燃費効率の向上と修繕費の削減を図った。</p> <p>オ. H31.4～不採算運行の効率化を図った。</p> <p>① 不採算系統の上野線 (高根支所経由) を廃止し、経費削減した。</p> <p>② 不採算系統の玉穂循環線線を廃止し、経費削減した。</p> <p>③ 不採算系統の上小林循環線を廃止し、経費削減した。</p> <p>④ 不採算系統の市民交流センター線を廃止し、経費削減した。</p>				
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

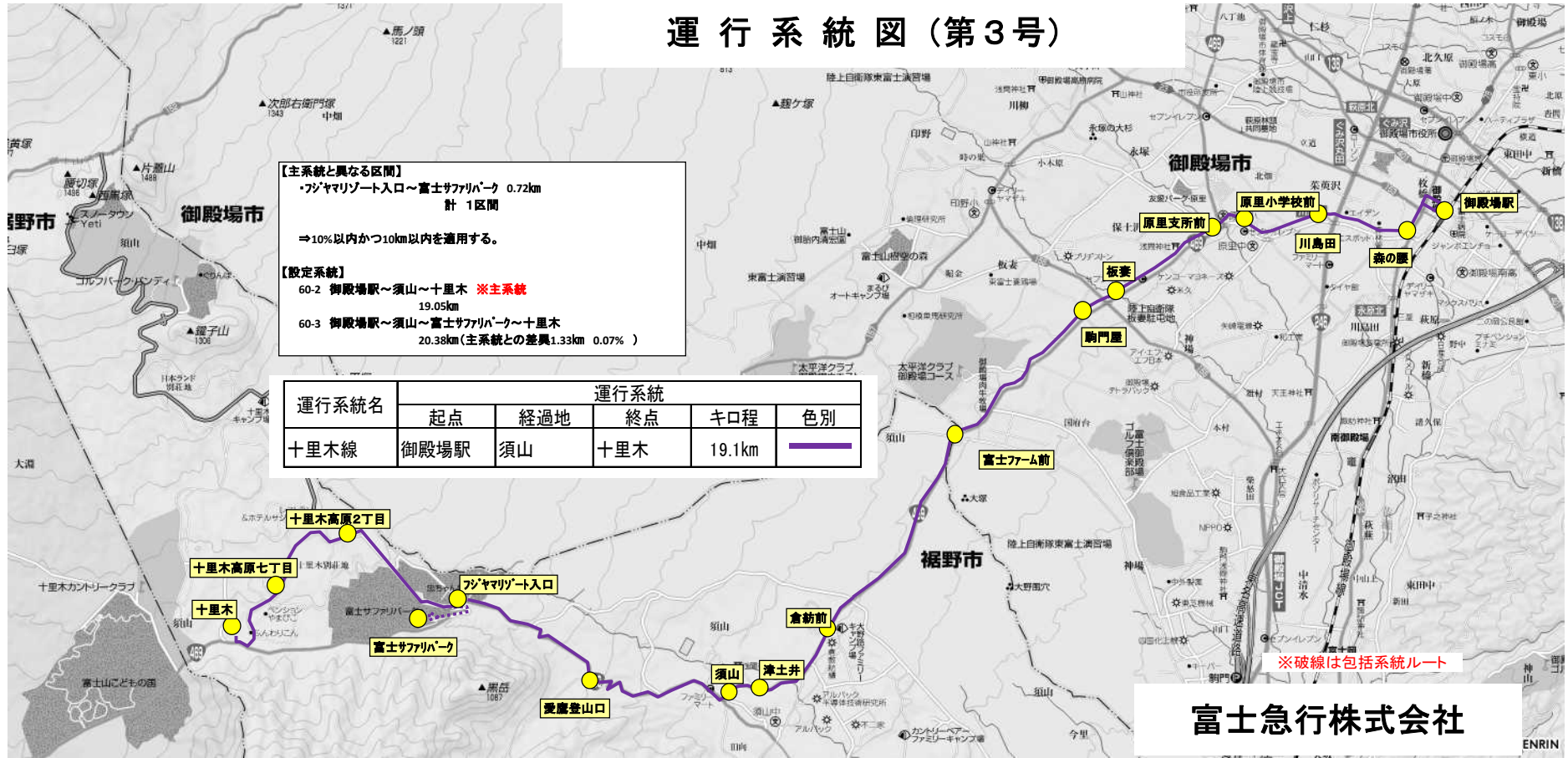
運行系統図 (第2号)



運行系統名	運行系統				色別
	起点	経過地	終点	キロ程	
駿河小山線	御殿場駅	一色	駿河小山駅	11.8km	—

富士急行株式会社

運行系統図 (第3号)



運行路線図 (第4号)

運行系統名	運行系統			
	起点	経過地	終点	キロ程
河口湖線	河口湖駅	旭日丘	御殿場駅	35.9km

富士急行株式会社

【運行割合算定】※主系統
 ①河口湖駅～籠坂峠 18.51km
 ②籠坂峠～県境 0.77km
 ↓
 ①山梨県運行エリア = 19.28km (53.4%)
 ②静岡県運行エリア = 16.63km (46.3%)
 合計 35.91km

【主系統と異なる区間】
 ①忍野入口～梨ヶ原 5.60km
 計1区間
 ⇒10%以内かつ10km以内を適用する。

【設定系統】
 ①河口湖駅～旭日丘～御殿場駅 ※主系統
 35.91km
 ②河口湖駅～膳棚～旭日丘～御殿場駅 ※当該期間運行なし
 37.91km (主系統との差異2.00km 5.3%)

H27.4.6～「御殿場プレミアム・アウトレット」発着便は適用除外。

